

一般質問通告書

令和 8年2月20日

弥富市議会議長 殿

弥富市議会議員 佐藤 仁志

下記のとおり質問したいので通告します。

記

書画カメラ	<input type="checkbox"/> 使用する <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない (どちらかにレ点を付ける) ※通告書提出後は、議長に許可を得ること (口頭可)。
-------	---

件名	1 「官製談合」事件の全容解明、損害回復の法的義務、および入札制度の構造的欠陥に対する市長の政治責任について
質問項目 及び要旨 (具体的内容)	<p>事件の本質は「時代遅れの秘密主義」。入札にとどまらない市政全般の徹底した透明化を</p> <p>今回の「官製談合」疑惑の本質は、決して突発的な事故や一職員の犯罪の嫌疑ではなく、弥富市役所に長年蔓延している「徹底した秘密主義」と「不透明な組織体質」が招いた必然です。この体質を根本から変え、すべての行政運営を透明化することが今求められています。その論点は以下の4つに集約されます。</p> <p>時計が30年止まっている弥富市 約30年前の「談合問題」を機に、国や全国の自治体は透明化へと舵を切りました。しかし弥富市だけが古いやり方に固執し、情報公開という世間の標準から完全に切り残されていませんか。</p> <p>不透明な行政運営は「氷山の一角」 今回の事件に限らず、特定の業者に対する不自然な対応疑惑や、無理な人事異動と事務引き継ぎの失敗による税金補填など、一部の人間だけで情報を囲い込み、市民や議会に隠す「隠蔽体質」が根本的な原因です。本来、役所の仕事に隠さなければならない秘密などありません。</p> <p>情報公開こそが「良い競争と改善」を生む 秘密主義は「癒着や自滅」という悪い結果しか生みません。他の自治体や民間企業のように組織のOS(基本ソフト)をアップデートし、情報を徹底公開して広く知恵を集めることこそが、無駄を省き、行政サービスの品質を向上させる「良い競争」を生み出します。</p>

	<p>市長の責任と、今すぐやるべき「本物の情報公開」 「今後検討する」といった市長の及び腰な答弁は、自分たちの裁量（権限）を手放したくないという本音の表れです。弥富市が発展するために今すぐ始めるべきことは簡単です。入札制度の枠を超え、よほどの理由がない限り市政に関する「すべての情報を原則公開する」ことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 事件の現状認識「99%落札」の統計的異常性について (2) 管理者としての資質、プロとしての「眼」と不作為について (3) 制度の歴史的欠陥「30年の改革遅延」について (4) 情報の非対称性「予定価格非公表」の弊害について (5) 組織的背景の深層について (6) 入札事務の構造的欠陥「古いOS」について (7) 損害回復の即時実行契約約款「20%条項」について (8) 過去の損失検証「被害」と遡及調査について (9) 調査の客観性「第三者委員会」と証拠保全について (10) 管理責任の総括について
答弁者	市長

件名	2 相次ぐ事務過誤による損失および大型公共事業推進に伴う将来負担と、市長の財政・経営哲学について
質問項目 及び要旨 (具体的内容)	<p>先般の国庫支出金申請漏れによる約 730 万円の損失補填をはじめ、市内部での事務ミスや不適切な処理が散見される。これらは単なる個人のミスではなく、組織全体にコスト意識や危機管理意識が欠如している表れではないでしょうか。</p> <p>一方で、市は弥富駅周辺整備や自由通路、公共施設建設、さらには新たな土地区画整理事業など、多額の財政支出を伴う大型事業を次々と推進しています。</p> <p>昨今の金利上昇局面において、将来世代に多大なツケを残しかねないこれらの事業に対し、現在のどんぶり勘定的な組織風土のままで突き進むことは極めて危険です。組織の長として、足元の「事務品質」と将来の「財政責任」をどう考えているのか、市長の政治姿勢と哲学を問います。</p> <p>(1) 一連の事務処理ミスと組織風土に対する市長の認識について</p> <p>①相次ぐ事務過誤の根本原因（個人の資質か組織風土か）への認識について。</p> <p>②『不都合な真実』を直視し、直ちに改善する組織文化の有無について。</p> <p>(2) 大型公共事業の推進と財政規律（将来負担）に対する説明責任について</p> <p>①進行中の大型公共事業における『真の将来負担額』の試算と説明責任について。</p> <p>②市債（借金）の総額・返済計画と、将来負担に対する市長の財政哲学について。</p>
答弁者	市長